

日本和大会一万人

10月22、23の両日、三沢市で日本平和大会が開かれ、全国から1500人が参加、軍事基地と平和の問題を中心に、戦争法廃止の課題、自衛隊南スーダン派遣・駆け付け警護等の危険性を取り上げて討議・学習し、軍事基地に反対し平和の共同を広げようと確認しました。

三八地区からは、実行委員会を結成して取り組み、自家用車相乗りで、のべ160人が参加しました。また、バスによる三沢基地調査のガイドや空港屋上での説明役、受付・分科会担当などの任務を引き受け、集会成功に貢献しました。以下は、高教組三八支部・田村儀則さんの報告から。

三八地労連

ニュース

三八地方労働組合総連年
合(地労連) ● 2016
12月5日発行・151号
● 八戸市柏崎一丁目
10-34 ☎ 0178-47-8886

労働法制改悪反対、全国一律最賃を！

開会集会

開会集会では、元自衛官が迷彩服で登場し「駆け付け警護は、必ず人を殺すことになる。(その)最初の自衛隊員を青森から出してはいけない」と訴えました。来賓として、伊波洋一参院議員(沖縄)、高橋千鶴子衆院議員(日本共産党)、



23日のピースパレード

田名部匡代参院議員(民進党)があいさつ。基地問題、戦争法・駆け付け警護問題、立憲主義破壊の安倍政権の暴走を糾弾しました。横須賀在住のリラン・バクレー監督の現地取材(三沢基地、青森駅前)映画上映では、イラク爆撃について、「爆弾が投下されれば」学校も病

院も破壊される」と淡々と答える米軍兵士の姿が映し出されました。青森、宮城、福島、京都、埼玉、東京、沖縄から「基地はいらない」のリーレートークがありました。

シンポジウム

2日目は多彩なテーマで10のシンポジウムや分科会が行われました。第3分科会では、奥村県労連議長、奥本菜保巳前三沢市議、千坂平和委員会事務局長らが発言。米軍三沢基地撤去の世論と運動をどうつくるかがテーマでした。三沢市民としての観点、青森県の運

社保協自治体キヤンペーン

と答えました。

青森県社会保障推進協議会は11月22日、八戸市との懇談を行い32人が参加しました。事前に提出した2016年度自治体キヤンペーン要求書の回答があり、その後、国保や介護保険、医療、生活保護等について、やり取りを行いました。回答の中で市側は、子ども医療費助成を入院については今年4月から「高校生に相当する年齢」まで拡充したこと、自己負担分の助成)大きな成果、通院については引き続き検討していくと述べました。交渉団は、三八管内の他の町村すべてで入院・通院とも助成が実現していることを述べ、さらなる充実を求めました。また、交渉団から、国保税の減免申請書類を分かりやすい場所に置いてほしいとの要望が出され、簡単なやり方を検討したい

動の改善点など様々な視点からの議論が交わされました。

閉会集会とピースパレード

13時30分から三沢市中央公園で閉会集会を開催。自衛隊員を家族に持つ富山正樹さんが「何かしなければ絶対後悔する。若者を青森から南スーダンに行かせてはならない」と訴えました。その後、青年をリーダーにピースパレードが行われ、コールと「軍事同盟ではなく、憲法を生かした平和な日本とアジアを」等の横断幕を掲げて行進し、市民にアピールしました。



八戸市との懇談

2017年 旗びらき

三八地労連

- ◇日時 2017年1月13日(金)18:30～
 - ◇会場 友の会福祉会館(旧三八教育会館)
 - ◇会費 2000円
 - ◇申込 1/10まで(☎・Fax 47-8886)
- 各組合ごとにまとめてお申し込み下さい。



懇談終了後、今年4月からはじめられた後期高齢者ドック(国保ドックと同じ健診項目、自己負担5000円)の受診者数について担当者に聞いたところ、「毎月100人程度の受診があり、多い。これまでは国保ドックに比べて健診項目が少なく不安だったのかも知れない」と教えてもらいました。

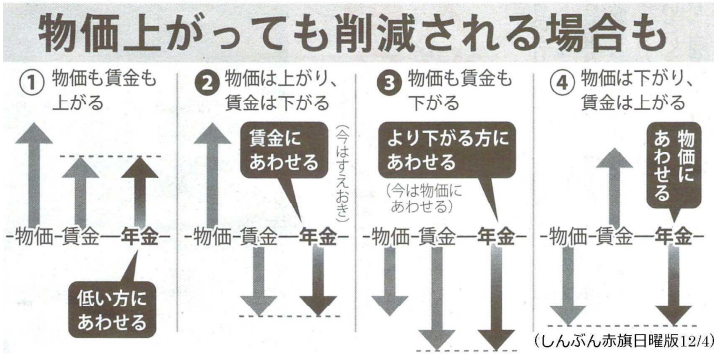
10月31日は階上町と南部町、11月2日は新郷村と田子町、11月9日は五戸町と三戸町を訪問しました。各町村では、新しい介護予防事業(介護予防・日常生活支援総合事業)がサービス低下につながらないかという不安や自治体によってサービスのレベルが変わってくるのではないかと等の話が交わされました。また、五戸町では子ども医療費助成を今年8月から通院も中学生まで(入院は前から)にしたことが分かりました。

年金カット法案は廃案に!

この法案は、(1)物価が上がって賃金が下がれば賃金に合わせてマイナス改定(平成33年4月実施)を行う、(2)年金削減の仕組みで、物価下落時に削減し切れなかった分を翌年度以降に持ち越す制度を導入する、というもの。

既裁定者は物価スライドが原則なのに、図①③のように、賃金上昇率が物価上昇率を下回る場合は賃金スライドにする、図④の場合は、賃金が上がっても物価が下がったときは物価スライドで年金を下げるというのが(1)の内容です。いずれにしても年金カット!

また、(2)はマクロ経済スライドについて、「前年度までの未調整分を含めて調整キヤリーオーバー」



するもので、物価が上がらずマクロ経済スライドが実施できなかった場合、物価が上がった年に2年分(1.2%×2)を削減すると言うもの(物価次第だが3年分削減も!)。これ以上年金を削減することは、高齢者の暮らしを圧迫するだけでなく、地域経済にもマイナスである。年金はほぼ100%が消費にまわり、とくに高齢者の消費支出が経済に大きな比重を占める地方経済に与える影響は深刻。消費が冷え込めば、地域の雇用や経済にも打撃となり、現役世代の収入にも悪影響を与える。際限のない年金削減を強行する年金カット法案を阻止することは喫緊の課題!

全医労八戸支部 いい・いちにち行動

11月11日全医労八戸支部は、全国統一行動として「いい・いちにち行動」を実施しました。労働者としての権利を知らない事は、上司の耳を疑うような発言があつてもおかしいと気づくことができず、自分達を守れないと考え、今年度は



「権利を知らなきゃ損をする」と題して、全医労本部作成の「みんなの権利ノート」を参加者全員に配布し、年次休暇や特別休暇、超過勤務、子育て支援制度、介護支援制度について学習会を行いました。

参加は35名でカレライスや漬物などを振る舞い、和気あいあいとした雰囲気の中で食べながら、日頃、不満に思っていることや、職場の悩みなど多くの意見を聞くことが出来ました。組合員が思っている事を聞く良い機会となったことや、「ひとりで悩まず、何かあったら組合に相談しよう」と意思統一することができました。また、一人でも多くの方を仲間に加え、組合の力を結

集する大切さを話し合い、活気のある一日となりました。みんなが働きやすい職場となるように、今後も頑張らなくてはと奮い立たせられる良い機会となりました。

原発再稼働STOP! どうする核のごみ! 全国交流集会 in 岩手の報告

原発再稼働STOP! どうする核のごみ! 全国交流集会 in 岩手が、11月27日盛岡市で開催され八戸から5人が参加した。

伊東達也筆頭代表委員が基調報告を行い、3・11後の情勢(被災県民の切り捨て政治、原発再稼働への暴走)と高レベル放射性廃棄物最終処分問題、チェルノブイリ現地調査、「原発・核燃からの撤退」の合意形成に向けて、等について述べた。

鹿兒島、福井、新潟の特別報告は、三反園知事誕生をめぐる経緯や、原発裁判の状況の変化、新潟シヨック等で、興味深く聞いた。

記念講演は「高レベル放射性廃棄物処分をめぐる日本学術会議の『回答』と『提言』について」と題して行われた(東工大名誉教授今田高俊氏)。

提言は、高レベル放射性廃棄物処分に関する行き詰まりの要因を、超長期にわたる安全性と危険性の問題への対処への「科学的知見の限界」と、原子力政策に関する合意が欠如したまま最終処分地選定という問題が先行して扱われていること、と述べている。今田氏は、状況打開のためのポイントとして「暫定保管」と「総量

管理」の二つをあげ、この二つを柱に政策的枠組みを再構築することが不可欠と説明した。暫定保管については、50年を一区切りと考えていること、暫定保管施設の設置や最終処分候補地の選定についても「負担公平」の観点、近隣自治体の意向の反映を、と説明した。

質疑で、プルトニウムの扱いは未定(アメリカの核政策との関わりがある)と述べた。

討論では、豊かな三陸の海を守る会からの発言が多かった。六ヶ所再処理施設と女川原発にはさまれ、危険なのに発言権がないという岩手県民の気持ちはよく分かる。核燃黙っちゃおられん津軽の会事務局長(弘前大学教員)からは、会の活動報告と合わせて、今年から理工学部(自然エネルギー)学科を開設、福島からの学生もいる、各地から学びに来てほしいとの発言があった。(新岡)

- 【当面の日程】
- 12月9日 年金裁判、13:30青森地裁 働きすぎ・不払い残業なくせ! 労働相談ホットライン
 - 12月19日 戦争法廃止19日行動 13:30三日町交差点付近
 - 12月29日 1月3日 事務局閉鎖
 - 1月6日 6・9行動、11:00コープのいけ店・予定
 - 1月10日 地労連幹事会⑥、18:30
 - 1月13日 地労連旗びらき、18:30 友の会福祉会館
 - 1月15日 ブラック企業なくせ行動 11:00コープのいけ店(予)